

## 西濃農林事務所の普及活動状況

平成29年12月31日現在

### 今月の重点活動

#### ■ 青年農業士 活動を形に残す～酒造りの取り組み、視察研修の開催～

西濃青年農業士会は12月7日、愛知県の酒造会社を訪問し、視察研修を行った。今年度の活動の一環で、青年農業士自らが栽培したハツシモ90kgを原料として、オリジナル酒を造るというもの。酒造会社では、酒ができるまでの説明を聞き、飲み口や香り、瓶やラベルのデザインの打ち合わせをして「お酒のオーダーメイド」がスタートした。オリジナル酒は3月に完成予定で、出来上がりが待ち遠しい。

農業普及課は、視察研修の実施や酒造会社との連絡調整などの支援を行った。



【出来上がりが楽しみ！酒造りの打ち合わせ】

### 多様な担い手づくり

#### ■ 指導農業士連絡協議会西南濃支部 支部交流会で親睦深まる

12月9日、大垣市臼井牧場にて指導農業士西南濃支部交流会が開催され、関係者を含め18名の参加があった。台風の影響で視察研修会が中止となり、その代替として行われた。臼井氏の手作りバンガロー、釜戸、ピザ釜、飼料米用粉碎機などの紹介や、釜戸で炊いた卵かけごはん、炊き込みごはん、釜戸の余熱を使ったピザ等を味わった。材料の一部は、会員各自が持ち寄り、準備の段階から全員参加して、和気あいの楽しい会となった。

指導農業士らは夫婦で参加し、お互いの交流を深める行事となった。



【臼井牧場の様子】

### 売れるブランドづくり

#### ■ ブロッコリー ブロッコリー出荷順調

今年度のブロッコリー栽培は台風21号の影響で、倒伏・浸水等の被害を受け出荷量の減少が懸念されたが、11月は10,491ケース（計画比120%）の出荷となり順調な滑り出しとなった。また、11月後半からの低温の影響で花蕾の肥大が遅くなり、平年では12月中盤に大きな出荷ピークとなるが、本年はコンスタントな出荷が見込まれている。

12月7日、農業普及課は昨年に引き続き、低温時の花蕾肥大促進を図る保温被覆資材を検討する展示ほを設置した。収穫期まで低温時における花蕾肥大状況の調査を行う。



【保温資材を被覆したほ場】

#### ■ いちご・なす 活発に活動される～目揃会、研修会、反省会～

管内の各いちご生産部会で、それぞれ目揃会が開催された。花芽分化は平年よりやや早かったものの、10月中旬の日照不足と10月下旬の2つの台風により草勢が低下、11月の低温傾向もあって、出荷開始は昨年より5日～10日遅れた。目揃会では、規格・選別の徹底により品質の良いいちごを出荷していくことが確認されたほか、パッキングセンター等の共同選果に関して質問が上がるなど、検討が行われた。農業普及課からは厳寒期の草勢維持対策について説明を行った。

また、12月5日に平田いちご部会では、支部ごとに生産者全員でほ場を見学しあうほ場巡回研究会が行われた。お互いにはほ場を確認して、栽培管理の進捗状況や生育状況を確認しあった。農業普及課より、今後の管理や病虫害防除について説明を行った。

海津なす部会では、栽培反省会が12月11日に行われた。平成29年産は、定植後に低温傾向であったものの、前半は天候も良く出荷量も多かったが、8月、9月の相次ぐ台風により出荷量が伸びず、10月の日照不足もあって出荷が早く切り上がってしまった。総量としては、新規就農者が2名増えたことにより昨年以上ではあったが、単収で見ると約2割減となった。

農業普及課より土壌病害対策や肥培管理の徹底について呼びかけを行った。

### ■ 祝だいこん 正月の縁起物～関西市場に向けて出荷～

12月8日、平成29年産祝だいこんの生産支援を目的として、播種後約2か月の生育調査を行った。本年は台風21号の影響とその後の低温による肥大不足が懸念されたため、農業普及課ではトンネル等の被覆を呼びかけ肥大促進を図ってきたが、昨年と比較して根径が細く、根長は短い傾向であった。

12月20日に目揃会が開催され、規格に沿った祝いだいこんが12月25日から27日まで関西市場に向けて出荷された。



【祝大根の荷姿】

## 住みよい農村づくり

### ■ 飛騨美濃特産名人 きゅうり、なすの名人誕生！

12月21日に、岐阜県庁で平成29年度飛騨美濃特産名人認定証授与式が行われた。西濃農林事務所管内からは、JAにしみの海津きゅうり部会の横井明氏（海津市）と、JAにしみの海津なす部会の伊藤宗人氏（海津市）が認定された。飛騨美濃特産名人は、卓越した技術と見識を有し、地域の農業振興に多大な貢献をされた方々を知事が認定している制度。

お二人には今後とも地域の中心人物として、産地の発展や後進の育成など、さらなる活躍が期待され、農業普及課も活動を支援していく。



【左：伊藤氏 右：横井氏】

### ■ GAP・スマート農業 西南濃農業普及事業推進協議会が現地研究

12月19日、西南濃農業普及事業推進協議会の主催による現地研究会が実施され、管内市町、JA、農林事務所職員計15人が視察研修を行った。滋賀県近江八幡市のJAグリーン近江では、土地利用型作物で100haを超えるグローバルGAP認証を取得した取組みの経緯と現状を聞いた。同じく近江八幡市の浅小井農園(株)では、施設園芸におけるJGAPの維持管理と効果について聞いた。彦根市の(有)フクハラファームでは、ICTを活用した省力化の他、農地集積や人材育成についての考え方を聞いた。

農業普及課では、現地研究会の企画立案及び視察先との連絡調整を行った他、滋賀県での取組みを参考に、西濃管内におけるGAP及びスマート農業の啓発に努めていく。



【JGAPに取り組んでいる浅小井農園で説明を聞く】